

# 緊急救援 モザンビーク大洪水

災害発生:2000.2 豪雨で大河リンボボ川周辺の村が水没  
救援期間:2000.3.8~6.30  
観測史上最悪と言われる過去1ヶ月の豪雨で、普段10kmほどの川幅の大河リンボボ川は最大125kmまで広がり、周辺の村は完全に水没し、約80万人の人が避難した。  
当委員会は「モザンビーク洪水支援ネットワーク」をカウンターパートとし、「ロジータ基金」(被災地から避難してきた子ども達の面倒を見ている現地女性を支援)に支援をした。  
救援基金総額:¥652,262 (36万円)

## ■モザンビーク緊急救援委員会・会計報告■

【収入】		【支出】	
支援金(36万円)	652,262	送金	570,440
		事務局運営費(支援金の15%以内)	81,822
			8,760
			17,242
			11,400
			44,420
計	652,262	計	652,262
残金			0

単位はいずれも円。

※事務局運営費のうち固定費・人件費については、同時期に救援活動を行ったベネズエラ・モザンビーク・モンゴル・カンボジア各委員会合同で、活動規模に応じて下記案分を配分します。

家賃案分(0.5ヶ月分)	78,750
光熱費案分(0.5ヶ月分)	12,000
人件費案分(1/3ヶ月分)	60,000
計	150,750

## ■6月13日<事務局より>

当委員会は、現地にスタッフを派遣して、調査・救援活動を行うことが難しいため、「モザンビーク洪水支援ネットワーク」をカウンターパートとして、「ロジータ基金」に支援することが、常任委員会により承認されました。  
募金総額は、595,963万円です。また、今回より「1コイン運動」を展開しておりますが、これらの外貨の方の集計は、米ドル16,76ドル、イギリスポンド11ポンド、ドイツマルク25.36マルク、フランスフラン17,30フラン、タイバーツ180/バーツ中国元36元その他不明硬貨が25枚となりました。  
また、委員会発足時から募金総額の15%を事務局経費に充てることを了承されています。今回は、他の信頼できるNGOなどを通じての支援となっていることから事務局経費がそれほどかかっておらず、募金額が少ないこともあって、15%までの事務局運営費相当分について、事務局から実費以外には要らないとの申し出がありました。常任委員から、「過去の救援時の平均的な数字から15%が算出されてもおり、今回のように余って行く場合は、事務局としての判断で清算後、『NGO災害救援金』に残金を寄付する。  
「NGO災害救援金」は、同時平行で災害救援委員会が立ち上がっているときに委員会の判断で最も必要な被災地に優先的に充当してもいいという主旨の救援金である。ただ、今回のようなケースがあって、救援金の積立額が増えてくるならば、委員会が立ち上がってから募金が集まるまでの間に必要な活動経費(災害初期対応費)にも充当できるようにすればいいのではないかと」の意見が出されました。常任委員会としては、基本的にはその方向で一致しました。

従いまして15%の89,394円を事務局経費とし、残り506,569円を「モザンビーク洪水支援ネットワーク」へ支援させていただきます。  
皆様ご協力ありがとうございました。  
「モザンビーク洪水支援ネットワーク」からの情報を紹介させていただきます。

「今ここは、コレラの蔓延で大変な状況です。そして、信じられないくらい寒いです。こんな6こと生まれて初めてで、このまま冬を迎えるとどうなるのでしょうか？雨もまた降り出しています。考えて見て、テント暮らしの人々のこと。床もないところに寝ている人のこと。雨と寒さ。一体どうしたらいいのでしょうか？村に帰るといってもどうやって？誰かオーガナイズするの？家の建設なんかにかかる費用はどこで手に入れられるの？  
親のない子供たちはどうやって生活していけばいいの？どこに帰るの？以前(戦争中)の闘いは聞えた。でも、自然とは闘いようがないのです。どうしようもない。私たちの力では、状況は悪いシナリオの方向に進んでいるように思われるの。本当に悲しい思いをした。生後数ヶ月の赤ちゃんに会ったの。小さくて鶏ほどの大きさにも成長していかないの。洪水直前に両親を失って、16歳のお姉さんと8歳のお兄さんに育てられていたんだけど、洪水があつて育てられずにお姉さんの方が逃げちゃったの。そして、この赤ちゃんは5歳か6歳かのお兄さんと取り残されてしまったの。この小さな赤ちゃんを見るのは辛い。連れて帰りたくても、政府は出身地から被災者を出さないという政策をとっているから連れて帰られない。その理由は分かるけれど、じゃあこの子供たちの未来は？最近、こんな状態の子どもたちを引き取る夫婦に家や仕事を与えるというプロジェクトがあるようだけれど、子どもは両替のための道具ではない。私たちは貧しくてこんなことになってしまう。わたしたちはただの人間で何もできない。すべてをできない。私たちの未来はどうなるのだろうか？」

ファティマさんは、第2報でもご紹介させていただきましたが、洪水により被災した子ども達数人を自宅に避難させ、面倒を見ている方です。「モザンビーク洪水支援ネットワーク」は、現地で避難家族や洪水で親を失った子供たちの支援を行っているファティマ・ウィエイラさんの活動をサポートする目的で結成されました。「ロジータ」とは、洪水の中木の上で産まれ救助された赤ちゃんの名前で、このロジータ一家をファティマさんも支援しています。(現在、この家族はファティマさん宅に同居しており、生活再建に向けて準備中です)このロジータちゃんのように、史上最悪の災害を生き抜いた子供たちを支援して、こうという気持ちを含めて、Children like Rosita Fund(日本名で略してロジータ基金)という名前でも活動しています。

今後とも、「モザンビーク洪水支援ネットワーク」より、「ロジータ基金」についての進捗状況その他情報が入りましたら、随時「自然災害メーリングリスト(仮称)」やファックス通信等を通じてご紹介させて頂きたいと思います。

## ■3月16日

3月8日に委員会発足以来、3月15日現在17団体の加盟と「1コイン運動」への参加・集積所への協力団体が10団体となっています。今後継続して委員会への加盟・「1コイン運動」集積所へのご協力をお願いします。

加盟団体の神戸YMCAより日本YMCA同盟を通じての情報が入りました。

ジンバブエYMCA  
アフリカ南部洪水緊急救援アピール  
テレビニュースでも報道されています通り、観測史上最悪と言われる過去1ヶ月の豪雨で、南アフリカなど周辺3カ国を合わせ少なくとも約350人が犠牲となりました。現地からの報道によると、普段10キロほどの川幅のモザンビークの大河リンボボ川は最大125キロまで広がり、周辺の村は完全に水没しており、約80万人が避難しています。  
南アの救援部隊のヘリが先月27日から食糧もないまま屋根や樹木など高みに逃れていた約1万人以上を救出するなど、欧米などの政府、援助団体は航空機やヘリを派遣し救助が続いています。  
ジンバブエYMCAは、現地の教会関連団体と協力し、もっとも被害の大きかった地域の被災者への救援活動と、インフラ復旧支援プログラムを開始し、世界YMCA同盟を通じて他国のYMCAに救援を呼びかけています。

委員会加盟団体ではありませんが、モザンビークに滞在経験のある兵庫県在住の女性により組織された「モザンビーク洪水支援ネットワーク」より下記のような情報が入りました。

モザンビークの友人たちと連絡が取れるようになり、想像以上に厳しい状況が被災地だけでなく、避難先の都市部でも広がっていることが分かりました。各NGOや国際機関のレポートを見て、被害そのものが予想以上に大規模だったことが明らかになってきました。未だ人命救助の段階を終えていないと同時に、少なくとも100万人はいるといわれる避難民の対応も遅れています。  
また、モザンビーク人自身による支援活動についての情報も得ることができました。首都マプトに住んでいる私の友人が、被災地から避難してきた子供たちにシェルターを提供し、食事などの面倒を見ている。しかし、自宅と自己資金で面倒を見るのには限界が近づきつつあり、15日までに家主から家の明け渡しを迫られているそうです。また、食糧や薬、衣類の調達も困難となりつつあり、支援を呼びかけています。長年、ストリートチルドレンと関わってきた(食事や衣類の提供や職業訓練)女性だけに、早い段階から支援に乗り出しているようですが、やはり個人の力を超えているとのこと。皆様の反応を伝えたところ、本当に励まされるという喜んでいました。(その家主のようにお金にしか興味のないモザンビーク人も、これほど遠い所(日本)にいるのに心配し支援したいといってくれる気持ちが嬉しいとのことでした)今回は、彼女の活動、そしてその他のモザンビーク人による活動を是非支えることはできないかと思っています。

南部アフリカ大洪水水害緊急報告会のご案内  
日時: 3月23日(木)午後6時30分  
会場: 博愛社(小橋兄弟記念館3階会議室)大阪市淀川区十三元今里3-1-72  
参加費: カナ500円  
主催: 関西・南部アフリカネットワーク

◎日本緊急医療隊の先遣隊が11日、モザンビーク首都マプト近郊のマトラで本格的な活動を始めました。避難所に集まった市民は、マラリアのまん延を訴えているようです。衛生面でのケアが、今後早急な対策が必要。

## ■3月6日(プレスリリース)

モザンビークでは約2週間にわたる豪雨と2月後半のサイクロンで、南部を流れるリンボボ川の堤防が決壊。流域のチョクエ、シャイシャイなどの町がほぼ水没、住民が屋根の上などに取り残されている。援助関係者は最終的な死者が数千人に上る恐れもあると指摘。被災者は100万人、以前10万人が被災地に取残されている(3/1共同)。

このようにわずかな新聞情報でしか現地の状況が伝わってきませんが、この大洪水で100万人以上の方が家を失い、まだ木の上などに避難している人たちが多数いるということで深刻な事態になっています。  
そこで、阪神・淡路大震災以来これまで20回の災害緊急救援委員会の事務局を担ってきた「被災地NGO協働センター」は、ここに3月6日付けで「モザンビーク大洪水・救援委員会」を立ち上げ、広く市民および関係団体に支援の募金を呼びかけたいと思っておりますので、貴社のご協力をお願いしたく存じます。

なお、これまでの経験から水害の支援にはあまり反応がありません。そこでこの「モザンビーク大洪水支援」の募金の方法として、「1コイン運動」を提案します。

『モザンビーク支援の「1コイン運動」を広げましょう!!』  
O-おなじ  
N-にんげんとして  
E-いつも  
C-こまったときは  
O-おたがいさま  
I-いっしょに  
N-ぬくもりをとけよう。  
●日本だけではなく、トルコ・台湾・メキシコ・ホンジュラスなど国際的にもよびかけ各々の国の「1コイン」を集めて貰います。  
●ただ「1コイン」は送金するのに大変です。この運動に賛同して下さる方は、どんとどんと廻りの友達や知人によびかけ、まとめて送金して下さい。もちろん事務所にも届けて下さるのもOKです。  
●また、「私は「1コイン」の集積所になってもいいですよ!」という方がおられましたら連絡して下さい。小さな行為だけれど、被災体験をしたKOBETにたくさんの「1コイン」運動が広がれば、きっとモザンビークの人たちは元気になってくれます。  
●私たちは大きなことはできませんが、ただ小さな愛をもってすることはできます●  
マザーテレサ

## ■募金の振込先■

郵便振替 口座番号 00970-7-39728  
加入者名 阪神大震災地元NGO救援連絡会議  
※通信欄に「モザンビーク支援」とお書き下さい。  
皆様から寄せられた支援金の内、全体の15%を限度として事務局運営費および管理費に充当させていただきますので、ご了承下さい。  
詳しくは、被災地NGO協働センター・村井・鈴木までご連絡下さい。よろしくお願いたします。

委員会構成団体  
エイディアイ災害研究所/共働工房みんなよって屋/神戸アジアタウン推進協議会/神戸学生・青年センター/神戸定住外国人支援センター/神戸YMCA/コープこうべ/週末ボランティア/震災を生きる宗教者の集い/たかとり  
救援基地/都市生活地域復興センター/日本青年奉仕協会(JVVA)/日本カーディアンエンジェルズ/被災地NGO協働センター/兵庫県国際交流協会/ゆめ・風基金/FMゆいらい (3月16日現在)

「1コイン運動」集積所  
カリタス大阪 大阪市中央区玉造2-24-22  
共働工房みんなよって屋 神戸市兵庫区塚本通4-1-14  
神戸YMCA 神戸市中央区加納町2-7-15  
サポートKOBEL長野 長野市南千歳1-8-1 ウィルテリアビルB1F フォーラム游内  
週末ボランティア 神戸市須磨区友が丘7-154  
震災を生きる宗教者の集い 神戸市兵庫区兵庫町2-1-38  
多文化共生センター 大阪市東成区中道1-10-19  
都市生活地域復興センター 西宮市津門西口町7-3  
長野市ボランティアセンター 長野市鶴賀緑町1714-5  
被災地NGO協働センター 神戸市中央区東川崎町7-2-6  
兵庫県国際交流協会 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1 国際開発センタービル内  
国際情報センター/ひょうご国際プラザ  
ミキヤ(食堂) 神戸市兵庫区湊町1丁目  
味タコ(食堂) 山口県玖珂郡周東町下市1312-1  
(3月16日現在)  
集積所として、まだまだ募集しておりますので、ぜひご協力下さい!!!

なお、委員会加盟団体も同時に募集しておりますので、ご協力お願いたします。

このページのトップへ>